

緊急提案 (請願)

「消費税増税」論議とともに「日本長寿社会」構想を！

わが国議会（衆議院）は、平成24（2012）年6月26日、「社会保障」の安定財源のためとして「消費税増税」法案の採決をおこないました。それが既成3政党の合意にもかかわらず国民に安心感を与えないのは、「社会保障」の将来展望としての「日本長寿社会（高齢社会）」形成への構想とプロセスを同時に衆議することなく、財政上のしわよせを国民に求めていると理解されているからです。自民党は深く遠く「新世紀10年の失政」を省み、「国民主導の政治へ」を訴えて政権党となった民主党はマニフェストに掲げた「ライフ・イノベーション」の議論を展開すべきでした。反対票を投じたものの具体的提案がない議員諸氏にもいえるところです。

身近な実感で申せば、先の大戦の戦禍のあと、辛苦して復興に尽くし発展に尽くした人びとの晩年の暮らしに手厚く報いる「社会保障」（「支えられる高齢者」への医療・介護・福祉）では成果を感じることができませんが、年ごとに増えていまや3000万人に達した高齢者（65歳以上）を体現者とする「日本長寿社会（高齢社会）」形成への実感はありません。

現役世代とともに「支える高齢者」（アクティブ・シニア）層が加わった「三世代同等多重型（つりがね型）社会」の充実と達成、継続的な経済成長に対して無策であったことを、為政者はまず「新世紀10年の失政」として省みたくて、将来構想を掲げて呼びかけること。増税とともに「内需による増収」への展望を合わせ論じてはじめて、国民は納得がいくことになります。

一方、国政の無策をいう高齢者のわれわれは、新世紀10年の「日本高齢社会」をどう生きてきたでしょうか。

1999年の「国際高齢者年」を機に、国連が21世紀の潮流として訴えた「高齢化社会」への対応、**高齢者五原則「自立、参加、ケア、自己実現、尊厳」**を、身をもって暮らしてきたでしょうか。同時代のみんなが協力して与えてくれた「長寿としての時間と場」つまり「人生65年時代」から「**人生90年時代**」への25年間を、そういう意識で過ごしているのでしょうか。長年かけてつちかった知識・技術・資産を駆使して、地域・職域に新たな「モノと場としくみ」をこしらえて、「みんな（all ages）のための社会」（1999年の「国際高齢者年」に掲げた目標）をめざして活動をしているのでしょうか。

国も自治体も個人もこのままで推移すれば、しわよせはまず高齢弱者の暮らしに迫ってくることは必定です。「天災人禍」の“国難”に遭遇して苦闘している若年層からの批判を受け、世の中から高齢者への敬意が薄れ、“尊厳”を保って晩年を過ごすことができなくなります。といって、「わが国は世界のモデルになりうる。何もしないまま極東の片隅で、お年寄りの多い元気のない国になるかの瀬戸際だ」（野田首相、6月30日、都内での講演）はうつろに響きます。

みんな（all ages）が安心して暮らせる「日本長寿社会（史上初・国際的にも新たな三世代同等多重型社会）」構想を！

国会議員のみなさんは率先して、各地各界のリーダーの方々それぞれの立場で、「来日方長」（来たる日まさに長し）というような将来に明るい展望をもてる「日本長寿社会」達成への「のろし」をあげて、「内需増収」への道を開いてください。

1999年の「国際高齢者年」このかた「日本社会の高齢化」の経緯を観察しつづけてきたジャーナリストとして、「緊急提案」を警世の一石として投じます。将来構想を担うべき立場の方々の心底へ届きますように。（2012年7月17日）

*****提案者 **堀内正範**

朝日新聞社社友 高連協オピニオン会員 web「月刊丈風」編集人

web 日本文人の会 <http://joj.in.jp/> e-mail mhori888@ybb.ne.jp

tel & fax 0475-42-5673 〒 299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 9340-8